

6. 人間観

6-10. 交易

山の者をキムンベ kimunpe、浜の者をピスンベ pisunpe という。ピスンベは例えば藻琴、北浜、マスウラ、網走、常呂などである。網走川筋では網走がピスンベの「最上流」である。それより上はキムンベである。

山と浜ではカムイノミに差がある。浜ではアトゥイノミ atuy inomi をしていたのを子ども頃見た。藻琴のイナウサン inawsan も見た事がある。イトクパ itokpa (家紋) が違うだけでイナウケ inawke (木弊削り) の仕方は同じである。

浜の家は、南北に向いている。藻琴川も南から北へ流れ込んでいるからである。マサ葺き屋根であったが昔はヨシと笹であったという。笹葺き屋根の家をウラシチセ urascise という。浜の人はヤチグサを使わない。山の人はヤチグサの世話になっている。

口を染めたカラカリという婆さんがいてそのトゥカラ tukar (アザラシ) の脂 (スム sum) を買いに言った。トツカリ (アラザシ) は年中、浜にいる。家から見るとトツカリの尻の方から回って野球のバットのような棒 (パケキクニ pakekikni) でトツカリの頭を打った (パケキクニ コロ ワ オマン パケ キク pakekikni kor wa oman pake kik)。流氷が近づいて来るといなくなる。舟でトツカリ猟をするのは聞いた事がない。

舟は阿寒湖の丸木舟と屈斜路湖のオペライベ operaype 漁に使う丸木舟しか知らない。阿寒で行ったチブ ランケ cip ranke (舟おろし) はウイントクが音頭を取って行なった。とても声が良かった (ハウエ ピリカ hawe pirka) という事だ。

[美幌・菊地股吉氏]

6-11. イトクパ itokpa

エカシイトクパ ekas itokpa (男系の家紋) は自分が小さい子どもだったので聞いても教えてくれなかった。青年になり、結婚してから (マツコロ matkor) してから教えるものだろう。イトクパは家の紋章である。

イクパスイ (奉酒箸) の紋章をパスイイトクパ (pasuy itokpa) という。この紋章の形で覚えているものは、テクンペコロカムイ tekunpe kor kamuy (ザリガニ、サルガニ) で頭がパスイの先の方に向いている。これはカニ (アムパヤヤ ampayaya) とは違う。魚の形をした、たぶん秋味のイトクパもあった。やはり魚の頭がパスイの先に向き、尾が手で持つ方であった。レブンカムイのイトクパは見た事がない。海の神だから浜の人のパスイには付いているかもしれない。

[美幌・菊地股吉氏]